



特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr. 340

April 2019

NPO法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE
GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

2019年度通常総会・会員懇親会のお知らせ

NPO法人神戸日独協会は、2019年度通常総会を下記の要領にて開催いたします。
総会後には会員懇親会を開催し、会員の皆様と楽しい時間を過ごしたいと思っております。
総会と会員懇親会に、より多くの会員のご出席・ご参加を心よりお待ちしております。

2019年度通常総会

日 時： 2019年5月18日(土) 16:00～17:00

会 場： ユーハイム神戸元町本店ホール(3階)

(神戸市中央区元町通1-4-13 TEL 078-333-6868)

※ 会員の皆様には「総会開催案内」と「総会資料」を5月上旬にお送りいたします。
ご出・欠席のお返事は同封のハガキにて5月15日(水)までをお願いいたします。

会員懇親会

日 時： 2019年5月18日(土) 17:15～19:00

会 場： ユーハイム神戸元町本店ホール(3階)

会 費： 4000円

会費は同封の振込用紙で郵便局にてお振込み下さい。領収書は当日会場にてお渡しいたします。

申 込： 5月15日(水)まで事務室へメール・電話・ファックスでお申し込みください。

「神戸日独協会会報」の発行について

会長 柘田 義一

1989年の創刊以来30年間毎月発行してきました「神戸日独協会会報」について、最近の目覚ましい情報伝達技術の発達による情報化時代に応じた「会報」の果たす役割、そしてこれまで発行を支えてきた会員によるボランティアの確保など、昨今会報の発行をめぐる環境に著しい変化が見られるようになりました。

協会では実行委員会を中心に一年半前から「神戸日独協会会報」の作成の現状と将来像について議論を重ね、会報 Nr329(2018年5月号)にて、1)作成の現状の問題点、2)現状の打開策を提示して、会報の将来像を検討するための予備作業として「神戸日独協会会報についてのアンケート」をお願いしました。

このアンケートにつきましては会報Nr.332(2018年9月号)にてその結果をご報告しました。アンケート実施対象者205名のうち38名からの回答と少数でしたが、協会では実行委員会及び理事会にて、1)ホームページとの記事や役割での棲み分け、2)会報の発行回数と発行月、3)会報発行の運営方法について協議を行ってきました。

協議については、現在下記のような結論に至っています。

1. 「広報委員会」を設置して、会報の発行とホームページの記事更新を行う。
広報委員会は、委員として会員の参加を得て、担当理事とともに活動する。
2. 会員への速報性が求められる情報や写真などの情報の発信は「ホームページ」が担い、活動報告や会員からの寄稿の発信は「会報」が担う。
3. 会報の発行は隔月とする。
4. 会報の編集、印刷、発送はボランティアの協力を得る。
5. 現在講座の募集要項や行事参加費の振込用紙など会報に同封しているものは、会報同封を原則とするが、会報のメール受信者及び必要によっては別送とする。

当初は新年度より会報発行の変更を目ざしてきました。30年にわたり神戸日独協会の外部に対する顔としての「会報」の変更には会員の方々のご意見が十分に反映したものであらねばなりません。また、会報の変更とともにその補完ともなるホームページの紙面変更などの整備計画が立ち遅れています。

つきましては、4月の実行委員会および総会前の理事会での協議、そして何よりも総会にて会員の皆様のご意見を拝受して、最終的な結論を得たいと思います。

是非とも4月の実行委員会及び総会にご出席のうえ、ご意見をいただきたく願います。

4月実行委員会のお知らせ

前号会報にてお知らせしましたが、4月の実行委員会(第2土曜に変更)にて2019年度の協会活動及び会報について協議をしますので、実行委員以外の方にも是非ともご参加の上ご意見をいただきたく願います。

日時:4月13日(土)15時～

場所:神戸日独協会会議室

行事参加感想

「第5回ドイツ料理講習会」に参加して

会員 北川 玉恵

まだ肌寒い3月10日に芦屋の交流会館にて第5回ドイツ家庭料理講習会に参加いたしました。私が初めてドイツ、デュッセルドルフのゲルセンキルヘンを訪れたのも寒い3月でした。

今回は料理研究家の日下部管子さんに教えていただきました「ポテトのクリームスープ プファルツ地方風」、「鶏もも肉と野菜の煮込み料理 ヘルマン家風」、「蒸しブロッコリーのチーズクリームソース」、デザートに「黄桃のケーキ」を作りました。

このポテトのクリームスープは3月のゲルセンキルヘンの街中を歩きまわって震えながら急いで入ったスープ専門店の味を思い出させてくれました。

講習会の同じテーブルには最近料理を手伝ってくれるようになった大学生の娘と第1回に参加してくださった清水さんと一緒にさせていただきました。

まず初めに野菜を柔らかく煮込んでいざミキサーにかけようとしたらミキサーの底がなくスープがこぼれていく失敗した手品のような笑えるアクシデントがありましたが、軽量カップもポトリ、ポトリと漏れてくる！そんなハプニングも乗り切り、ミキサーの代わりにマッシャーでクリーム状につぶしてポテトクリームスープが出来ました。

バターたっぷりのフライパンにチキンを投入して油のハネと格闘していた娘でしたが清水さんがそのあと野菜を投入して煮込み始めるといい香りがしてきました。

ブロッコリーにかけるチーズクリーム作りでバターと薄力粉でお団子のようにするのですが、手の熱でうまく出来ないと言っていた娘が言っていたが、なんとかクリームチーズと蒸し器で温めてソースを作ってくれました。黄桃のケーキはコーンミールと薄力粉、溶かしバターを混ぜて焼くとぎりぎり試食時間に間に合って完成、美味しく焼くことができました。

試食会では柘田先生の奥様の節子さんが美味しい特性のロイヤルミルクティーを作ってくださいました。ありがとうございました。

第1回目の講習会にアシスタントとして、第2回は講師兼アシスタントとして参加いたしましたが無事、最終回の第5回まで終えることが出来ました。

この場をお借りしましてすべての運営にご尽力いただきました、原田さん、中島さんにお礼申し上げます。ありがとうございました。

ドイツ家庭料理を通じて広く皆様にドイツ連邦共和国と神戸日独協会を身近に感じていただけたら嬉しいです。

また、今回、参加できなかったけれどもご興味がございましたら次回、皆様とお料理を介してお会いできればと思っております。

PS. 第1回の講師をしていただいたラツハマン早希子さんは今年の1月末、ご主人の故郷ドイツへ帰国されました。マイスターの早希子さんが教えてくれたレモンケーキの香りがとてもよかったと同じテーブルの清水さんに言われて私も嬉しかったです。さっそく早希子さんに伝えようと思っています。

ドイツ語談話室

第184回ドイツ語談話室

日時：2019年3月16日(土) 14-16時

場所：神戸日独協会会議室

テーマ：日本の外国人労働者問題

今回の司会は合田ドロテアさんが担当され、ドイツでの外国人労働者の受け入れが始まったのが1955年で、当時イタリアの人たちが一番多かった事と、それらの人達がきつい仕事や汚れる仕事を引き受けていたことを振り返られた。日本での外国人労働者受け入れについて、参加者の皆さんから出た発言の一部を下記紹介する。

—現在の日本の経済レベルを、今後もキープないし高めようとするから人手不足を外国人労働で補おうとするので、経済レベルを徐々に下げて行けば何ら問題は起こらない。こうした政治家や産業界の考え方に問題がある。

—外国人労働者受け入れの方針は、政治家や経財界が若手労働者不足を補おうとして考え出した事だが、そうした外国人の受け入れの為の準備は全くできておらず、大いに問題だ。

—日本とアジア諸国との賃金レベルの大きな差が、アジアの若者に日本への出稼ぎを促しているようだが、その出稼ぎ仲介業者に多額の斡旋料を取られて返済に苦労している。

—多くのアジアの若者が、学生ビザで入国して違法労働に従事している為、多くの悲劇が生じている。一方、こうした若者に対する日本側の支援体制が全く出来ていない。

—日本政府・経済界がやっている研修制度は、その実、技術研修ではなくて、単なる低賃金労働者確保の隠れ蓑になっているに過ぎない事実が判明している。

—日本は島国で、外国人との付き合いには歴史的にも慣れていないため、外国人労働者の受け入れはなじまないし、問題が多すぎる。

—ある調査によると、日本人で外国人労働者の受け入れに肯定的なのは30%で、70%は反対か、良くわからないである。日本人が外国人労働者の受け入れに乗り気でないのが判る。

—外国の専門職の人にとって、日本は全く魅力のない国で、日本で働くことを考えるのは、単純労働者だけである。

—日本人は外国で起業をしようといった根性はあまりないが、中国や韓国の人には外国でもエネルギーで、その地で起業をする意欲と実力がある。日本でも多くのそうした人が成功している。

—日本では、農業を生業にしようとする若者が少なく、この分野でも外国人労働者による手助けを必要としている。

—今の日本の状況で、外国人労働者を受け入れようすると、受け入れ準備がなっていないので、問題が噴出して、混乱を招くばかりだ。

—ドイツやほかのヨーロッパ諸国に比べると、日本の外国人労働者の数はまだ少ない。ドイツでは、全労働者の10%近くが外国人労働者で、日本はまだ1%程度だ。

—孫子の代に、増々大きな借金を負わせようとする経済拡大路線を止めて、外国人労働者などに

頼らず、健全な均衡財政を目指し、経済規模を徐々に縮小してゆくべきだ。

今後のドイツ語談話室の予定

第185回 2019年4月20日(土) 14-16時 テーマ : 銀行取引で出くわした経験

第186回 2019年5月18日(土) 14-16時 テーマ : 麗しき5月

Deutsche Gesprächsrunde Protokoll der 184. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag 16. März 2019, 14 bis 16 Uhr

Thema: Ausländische Arbeiter in Japan

Dieses Mal hatte Frau Dorothea Goda die Gesprächsleitung und blickte auf die Aufnahme von Gastarbeitern in Deutschland nach dem Zweiten Weltkrieg zurück. Besonders ab 1955 kamen viele Arbeiter ins Land, damals zumeist aus Italien. Sie verrichteten vor allem schwere und oft schmutzige Arbeiten.

Bei der Gesprächsrunde kam es unter anderem zu folgenden Wortmeldungen:

-Ein Teilnehmer denkt, dass der Mangel an Arbeitskräften in Japan aus den ständigen Versuchen, das gegenwärtige Wirtschaftsniveau zu halten oder noch weiter zu heben, entsteht. Wenn wir das Niveau langsam senkten, gäbe es auch weniger Probleme durch Mangel an Arbeitskraft. Dass sich die Politiker und Wirtschaftsverantwortlichen darüber keine Gedanken machen, sieht er als Problem.

-Ein anderer Teilnehmer denkt auch, dass die Idee ausländische Arbeiter aufzunehmen, aus Politik und Wirtschaft stammt, um einem Mangel an Arbeitskräften entgegenzukommen. Die nötigen Vorbereitungen zu einer regulierten Aufnahme ausländischer Arbeiter wurden jedoch in Japan noch nicht vorgenommen.

-Ein Teilnehmer erwähnte, dass der große Lohnunterschied zwischen Japan und anderen Teilen Asiens wohl ein Anlass für größere Einwanderung nach Japan ist. Die Leute bezahlen große Mengen Geld an Vermittlungsagenturen und viele geraten in Schwierigkeiten, die Schulden zurückzubezahlen.

-Eine Teilnehmerin sprach davon, dass viele junge Männer und Frauen aus asiatischen Ländern mit Studentenvisum in Japan einreisen und illegal Arbeiten verrichten. Das führt oft zu tragischen Ergebnissen. In Japan gibt es leider noch kein System, das solche junge Leute unterstützen könnte.

-Ein Teilnehmer berichtet, dass das Praktikumssystem für Ausländer, das die japanische Regierung und die Wirtschaft eingerichtet hat, eigentlich kein Praktikum darstellt, sondern nur ein System ist, billige Arbeitskraft zu bekommen. Eigentlich ist es ein Betrug.

-Eine Teilnehmerin denkt, dass Japanerinnen und Japaner als traditionelles Inselvolk

an ausländische Arbeitskräfte nicht gewöhnt sind. Die Aufnahme von Arbeitern aus dem Ausland zeigt sich daher oft als problemgeladen.

-Ein Teilnehmer zitierte eine Umfrage, die zeigt, dass nur 30% der Bevölkerung für die Aufnahme ausländischer Arbeitskräfte eintritt. Die restlichen 70% sind dagegen oder verhalten sich indifferent. Das bedeutet, dass die Mehrheit einer Aufnahme ausländischer Arbeitskräfte nicht positiv gegenübersteht.

-Eine Teilnehmerin meint, dass Japan für ausländische Fachkräfte nicht so attraktiv sei. Arbeiter, die einfache Arbeiten verrichten, hätten am ehesten Interesse.

-Eine andere Teilnehmerin denkt, dass man in Japan weniger Mut hat, im Ausland ein Unternehmen zu gründen, als man das zum Beispiel unter chinesischen oder koreanischen Unternehmern sehen kann. Diese zeigen sich energischer dabei, ihre Wirtschaftspläne im Ausland erfolgreich umzusetzen. Dafür gibt es auch Beispiele in Japan.

-Ein Teilnehmer klagt, dass für viele junge Leute in Japan die Landwirtschaft keine Berufsoption mehr darstellt. Daher werden auf diesem Gebiet immer mehr ausländische Arbeitskräfte nötig.

-Ein Teilnehmer sieht ein besonderes Problem darin, dass Japan die nötigen Vorbereitungen für die Aufnahme ausländischer Arbeiter noch nicht abgeschlossen hat. Unter der jetzigen Situation vermehren sich nur die Probleme.

-Ein Teilnehmer erwähnte, dass im Vergleich zu Deutschland oder anderen EU Ländern die Zahl ausländischer Arbeitskräfte in Japan noch sehr gering ist. In Deutschland sind es ungefähr 10% der gesamten Arbeitskraft, in Japan zurzeit noch ca. 1% .

-Ein Teilnehmer denkt, dass Japan mit seiner jetzigen Wirtschaftspolitik aufhören muss, weil diese die Staatsschulden ausweitet und unsere Kinder und Enkelkinder immer größere Schuldenlasten zu tragen bekommen. Wir müssen unsere Wirtschaft langsam verkleinern und die Finanzen ausbalancieren, auch ohne Abhängigkeit von ausländischen Arbeitskräften

Nächste Treffen:

Samstag 20. April 2019, 14 bis 16 Uhr, Thema: Erfahrungen mit Banken

Samstag 18. Mai 2019, 14 bis 16 Uhr, Thema: Der schöne Monat Mai

ドイツ語講座・ドイツ文化教室 2019 年度第 I 期開講

4月8日より「ドイツ語講座・ドイツ文化教室 2019年度第 I 期」が開講しました。

5月より新しい「令和」の時代が始まります。新時代の開始とともに、ドイツ語へのチャレンジ、再挑戦、ブラッシュ・アップをはじめませんか。講座内容については、協会事務室にお尋ねください。ご参加をお待ちしています。

連載 ドイツ語閑話

第3回 「～に～を〇〇する」の目的語について

会長 柘田 義一

第3回目は、ドイツ語の動詞目的語の話をししましょう。

ドイツ語の動詞には、その動作・行為に関わる人・対象・事態などを表す目的語(Objekt)を必要とするものがあります。ドイツ語では動詞の目的語として名詞や代名詞の4格形(4格目的語)、3格形(3格目的語)、2格形(2格目的語)そして前置詞付きの目的語(前置詞格目的語)が用いられます。4格目的語を必要とする動詞を他動詞、gehen(行く)のように目的語を必要としない動詞及び2格・3格・前置詞格目的語のいずれかを必要とする動詞を自動詞と分類します。ドイツ語では自動詞には目的語をとらない動詞だけではなく、4格目的語をとらない動詞をも含まれる点で英語とは異なりますので注意してください。

そして動詞には1つの目的語だけではなく2つの異なる格形の目的語をとる動詞があります: ① Ich schenke ihm ein Buch. (私は彼に本を贈る)「3格目的語+4格目的語」、② Ich bitte ihn um Hilfe. (私は彼に助力を頼む)「4格目的語+前置詞格目的語」。同じ目的語の「彼に」が①では3格目的語、②では4格目的語と異なる点に注意してください。この相違はなぜでしょう。

①の schenken (～に～を贈る)のように「人を表す3格目的語」+「事物を表す4格目的語」をとる動詞には bieten (差し出す)、bringen (もたらす)、geben (与える)、reichen (渡す)、sagen (言う)、schicken (送る)、schreiben (書き送る)、zeigen (示す)などがあり、「授与動詞」と呼ばれています。このような動詞では、「動詞によって渡されるもの」、すなわち主語による動作・行為を直接に受けるもの、英語文法で言う「直接目的語」は「事物」であって「人」ではありません。「人」は主語による動作・行為に「受容者」として間接的に関わっているに過ぎません。ドイツ語では主語の動作・行為の「直接の対象」を表すのが「4格」であり、その動作・行為に「間接的に与る者」を表すのが「3格」なのです。ドイツ語文法では「格」を3格、4格と数字で表しますが、言語学では対象の「対格」、与るものの「与格」と言います。その他1格は主語の「主格」、2格は所属の「属格」と言います。言語学の術語の方がそれぞれの格の働きを反映して分かりやすいですね。

これに対して②の bitten (～に～を頼む)では「被依頼人」が「3格目的語」ではなく、「4格目的語」となるのはなぜでしょう。bitten は中世のドイツ語では「jn.+et.² biten」のように「4格の人に2格のことを頼む」という目的語をとっていました。ドイツ中世文学を代表する英雄叙事詩「ニーベルンゲンの歌」から例をとってみましょう: waz welt ir iuwer muoter (4格) solher dienste (2格) biten? (NL.346.2) (なぜあなたは母君にこのような仕事を願うのですか)、現在のドイツ語では Warum wollt Ihr Eure Mutter um einen solchen Dienst bitten? となります。4格目的語 iuwer muoter は「頼む」という動詞動作の相手、つまり直接の対象を、2格目的語 solher dienste は依頼の「目標(～を求めて)」を表しています。2格が動詞の目的語となり「目標・追求」を表すなど英語からドイツ語を学んでいる人にとっては奇異に思われるでしょう。英語での2格、即ち「所有格」は名詞に付加をしてもっぱら「所有」を表します。2格による所有表現は2格の用法の一部でしかなく、2格は元来極めて生産的な格で、中世までは多くの動詞の目的語として多様な用法

を持っていました。例えば eines Brotes essen と言えば「パンをひとかじり食べ」、4格での ein Brot essen「パンを全部食べる」に対して部分、現在のドイツ語での ein Stück を表していました。しかし格そのものが持っていた多義的な意味は次第に曖昧化してしまい、格の意味を明確にする「助け」として具体的な意味を持つ副詞などの不変化詞が格形に付加されるようになりました。このようにして今日の前置詞格目的語が成立しました。bitten は「目標・追求の対象(～を求めて)」を表す um が付加されて「jn. um et. bitten(～に～を求めて請う)」という目的語構造が使用されるようになりました。②の bitten の場合には動詞動作の行為が直接向けられる人が4格目的語で表され、動詞動作によって成し遂げられる行為の対象目標がかつては2格目的語で、現在は目標の意味「～を求めて」をより明確的に表現するために前置詞格で表されています。同じ目的語「彼に」であっても、schenken の場合は授与動作に与る人なので3格目的語に、bitten の場合には動詞動作の直接対象者なので4格目的語となるのです。

「格 Case」は、名詞類が主語なのか目的語なのかという文中で果たす役割です。この役割は日本語では「は、が、の、に、を」という助詞の付加によって、英語では語順(いわゆる5文型)と前置詞の付加によって、ドイツ語では(特に冠詞類の)語形変化によって表現されます。初等文法ではドイツ語の格を日本語の助詞との対比で、「～は、が」は1格、「～に」は3格のように教えます。しかしこの対比はあくまでも便宜的なものであってイコールではありません。上記の bitten の他にも、「～を手伝う(jm. helfen)」では手伝われる人は3格であり、「～に尋ねる(jn. fragen)」では尋ねられる人は4格と、「は、が、の、に、を」とドイツ語の格は一致しないですね。

動詞の目的語は「～に、～を」に頼らずに、辞書で確認するようにしましょう。

事務室からのお知らせ

会報発送ボランティア募集

会報の発送を手伝ってくださる方を募集しております。次回の発送予定日は5月9日(木)です。当日は会報に加えて「総会資料」も発送しますので、多くの方にお手伝いをお願いいたします。お手伝いいただける方は、事前に事務室へご連絡(TEL/FAX 078-230-8150)の上、12時半頃事務室にお越しください。

これからの神戸日独協会の催し

日時	催し	会場	申込×切 など
4月13日(土) 15:00～	実行委員会	神戸日独協会 会議室	当日参加可
4月20日(土) 14:00～	第185回 ドイツ語談話室	神戸日独協会 会議室	当日参加可
5月18日(土) 16～19:00	2019年度通常総会 会員懇親会	ユーハイム神戸 元町本店ホール	5月15日(水)

